

「冬のぽかぽかファミリーサバイバルキャンプ」報告書

令和3年12月4日（土）～12月5日（日）

【目的・趣旨／概要】

自然災害が年々増加するなかで生命を守り、被害を最小限におさえるために防災・減災力の育成が求められており、さらにその中で重要なこととして当事者意識を持ち、災害を想定し、自分の身を守るために行動できる力が求められている。本事業ではコミュニティの最小単位である家族の防災・減災力に注目し、家族が実際に被害を最小限に抑え、生き抜くために動くことができる力を養成する。

【連携先】

福島大学人間発達文化学類 初澤 敏生 教授

福島大学つくしまふくしま未来支援センター 天野 和彦 特任教授

【参加者】

対象：小学4年生以上の子どもと保護者

実績：10家族24名

【プログラム概要】

【集合・受付】【はじめの会】	1日目	9時40分～10時15分
【防災オリエンテーション】	1日目	10時15分～10時30分
導入のプログラムとして、今回の事業でどんなことを学ぶかを講師である初澤教授、天野特任教授から説明をいただいた。参加者は、防災・減災について興味・関心を高めることができた。		
【サバイバルキッチン】	1日目	10時30分～14時30分
天野特任教授の指導のもと、ガスコンロの必要性、そして、災害時の非常食についての説明をいただいた。その後、パッキングを行い、家族ごとに協力して取り組み、食事をした。片づけが終わった後に、家族ごとに3日分のパッキングのメニューを考え、全体で共有できた。 ※「パッキング」とは、ポリ袋に食材等を入れ、袋のまま鍋で湯せんする調理方法。		
【ぽかぽか体験会】	1日目	14時35分～16時35分
家族ごとに火起こしを体験し、寒い中でどうしたら暖かくなれるかをテーマに暖を取ることができた。		
【救急救命にチャレンジ】	1日目	16時40分～17時20分
家庭内で、親が怪我をした時に子どもが、子どもが怪我をした時に親が対応するという設定で、出血と骨折した時の応急手当について学んだ。		
【夕食】	1日目	17時20分～18時00分
【サバイバルベッドルーム】	1日目	18時30分～20時15分
家族ごとに、段ボールベッド作りに取り組み、避難所での生活について考えた。段ボールベッド作成後は、仕切りなど家族ごとのスペース作りも行い、家族ごとに考えた避難所について共有した。		
【入浴】	1日目	20時20分～21時50分
【朝のつどい】	2日目	7時00分～7時20分 ラジオ体操等
【朝食】	2日目	7時20分～8時00分
【サバイバルワークショップ】	2日目	9時00分～11時30分
天野特任教授の指導のもと、避難所運営について家族ごと、またはグループごとに考えた。日本とイタリアの避難所についての説明後、避難所で起こった実際の問題点について知り、どう解決していくかを話し合い、全体で共有した。		
【おわりの会】	2日目	11時30分～12時00分
本事業を振り返る場として、おわりの会を行った。子どもたちがこの事業を通して学んだことを発表し、それぞれの家族において災害時の対応についての力をつける機会となった。		
【解散】	2日目	12時00分

【成果】

- ・今回、講師である初澤敏生教授、天野和彦特任教授と連携し、事前の打ち合わせを行いながら、プログラム開発をし、事業運営をすることができた。
- ・家族での参加により、実際に災害が起こった時、家族ごとにどう対応したらよいかを学ぶことができた。サバイバルキッチン、ぽかぽか体験会、サバイバルベッドルームは災害時に生かせる活動であり、参加者は家族ごとに協力し、親が子どもに教えながら活動することができた。
- ・サバイバルワークショップでは、小学生を対象とした内容で親と子どもが一緒になって課題に取り組むことができ、様々な意見を出し合うことができた。

《参加者の声》

- ・第2弾を期待します。
- ・講義がとても分かりやすかったです。
- ・防災について勉強できていいと思いました。
- ・防災や応急手当、実際に手にして実践できたことで、身近に感じました。
- ・非常に勉強になりました。
- ・子と一緒に考える機会は少ないので参加してよかった。

【課題と方策】

- ・1泊2日であったが、プログラムの間と間にあまり休憩がなく、子どもたちの集中力が欠けてしまう場面があったので、ゆとりをもったプログラムにする必要がある。
- ・事業のスタート時は参加者の硬さがあったため、プログラムの順番を変えて実施してもよかったかもしれない。また、プログラムの合間につなぎとしてスタッフのアイスブレイクなどが必要であった。
- ・防災力とは何か。事業の目的をさらに明確にすることで、参加者にどんな力をつけさせたいのかが分かる。

国立那須甲子青少年自然の家 [作成] 企画指導専門職 小豆畑 隆則

